

<<TOPIC>>

今回の特集では、近年注目されているサンフランシスコに拠点を置くミネルバ大学についての記事を取り上げてみました。

コンテンツ

◆紹介記事◆	1
1) ミネルバ大学、再び「世界で最も革新的な大学」に選ばれる	1
・記事1) deepL 日本語翻訳	1
・記事1) オリジナル本文（英語）	2
2) ミネルバ大学 AI 研究所がコンセプトをスタートアップに変える	4
・記事2) deepL 日本語翻訳	4
・記事2) オリジナル本文（英語）	6
3) ネットフリックス共同 CEO ヘイスティングス氏、ミネルバ大学に 2000 万ドルを寄付	9
・記事3) deepL 日本語翻訳	9
・記事3) オリジナル本文（英語）	10
◆もっと知りたい場合◆	11

◆紹介記事◆

1) ミネルバ大学、再び「世界で最も革新的な大学」に選ばれる

ミネルバ大学は、World's Universities with Real Impact (WURI)により、2年連続で世界で最も革新的な大学に選ばれました。プロジェクト・ベースのカリキュラム、没入型オンライン・プラットフォーム、世界7都市で生活しながら学ぶグローバルな学生体験が評価されています。ミネルバ大学は、批判的思考力、創造力、コミュニケーション能力、そして異文化間での適応力の育成に重点を置いており、他大学とは一線を画しています。さらに、ミネルバ大学は「産業応用」カテゴリーで1位を獲得し、「第4次産業革命」、「倫理的価値」、「学生の流動性と開放性」といった他の分野でも高い評価を得ました。WURIは、社会に良い影響を与えている大学に焦点を当て、教育や地域社会との関わりを奨励することを目的としたランキング・システムです。

<https://finance.yahoo.com/news/minerva-university-once-again-named-130000593.html>

・記事1) deepL 日本語翻訳

タイトル： ミネルバ大学、再び「世界で最も革
新的な大学」に選ばれる

PR Newswire / 2023.5.18

サンフランシスコ、2023 年 5 月 18 日【PR Newswire】-- World's Universities with Real Impact (WURI) によると、グローバルで没入的、かつ目的意識の高い高等教育へのアプローチで知られるミネルバ大学が、2 年連続で世界で最も革新的な大学に選ばれました。

ミネルバ大学は、革新的なプロジェクト・ベースのカリキュラム、没入型のオンライン・プラットフォーム、そして独特のグローバルな学生体験で、引き続き際立っています。授業は、学生の批判的思考力、創造力、コミュニケーション能力を伸ばし、グローバルな問題を解決するための異文化間での適応力と視野を身につけさせるようデザインされています。ミネルバ大学の学生は、世界 7 都市で約 100 カ国からのクラスメートとともに生活し、学んでいます。

総合ランキングで 1 位を獲得したほか、ミネルバ大学は「産業応用」部門でも 2 年連続の 1 位となりました。また、「第 4 次産業革命」、「倫理的価値」、「学生の流動性と開放性」などのカテゴリーでも評価されました。

「ミネルバ大学のマイク・マギー学長は、「2 年連続で WURI からこのような評価をいただき、感謝しています。」は語りました。「教育と学習に対するユニークなアプローチと、安全で持続可能かつ公正な未来を築くためのスキルを学生に提供するという私たちの公約により、私たちはこの分野におけるリーダーであり続けています」。

・記事 1) オリジナル本文（英語）

TITLE : Minerva University Once Again Named Most Innovative University in the World
PR Newswire: May 18, 2023

SAN FRANCISCO, May 18, 2023 /PRNewswire/ --

WURI は、教育プログラムやより広範なコミュニティとの関わりを通じて社会に真のインパクトを与えている大学に焦点を当てることを目的とした国際的なランキング・システムです。このランキングは、革新を促進し、産業界や社会の需要に応える次世代を育成するための創造的思考を大学に促すことを目的としています。WURI は、国家競争力政策研究所 (IPSNC) が主催し、国連訓練調査研究所 (UNITAR) を含む 4 つの機関が後援しています。

ミネルバ大学について

ミネルバ大学は、世界中から集まる最も優秀で意欲的な学生のために、新たな大学体験を提供しています。ミネルバ大学の学士課程では、画期的なクロス・コンテキストの学際的カリキュラム、最高水準の学問水準、学習科学に精通した熟練教授陣、7 カ国を横断するグローバルで没入型の宿泊体験、深く長期的な学びを生み出す最先端のデジタル学習環境が組み合わせられています。ミネルバ大学は、WSCUC (Western Association of Schools and Colleges/Senior College and University Commission) の認定校であります。

www.DeepL.com/Translator（無料版）で翻訳しました。

Minerva University, an institution known for its global, immersive, and purposeful approach to higher education, has been named the most innovative university in the world for the second consecutive year,

according to World's Universities with Real Impact (WURI).

Minerva continues to stand out for its innovative project-based curriculum, immersive online platform, and distinctly global student experience. Classes are designed to develop students' critical thinking, creativity, and communication skills and to equip them with the intercultural competency and perspective to solve global problems. Minerva students live and learn in seven cities around the world with classmates from nearly 100 countries.

In addition to being named number one in the overall ranking, Minerva also ranked first in the "Industrial Application" category for the second year in a row. The university was also recognized in several additional categories including "Fourth Industrial Revolution," "Ethical Value" and "Student Mobility and Openness."

"We are thrilled to receive this recognition from WURI for the second year in a row," said Mike Magee, president of Minerva University. "We remain a leader in this space because of our unique approach to teaching and learning and our commitment to providing students with the skills to build a safe, sustainable, and just future."

WURI is an international ranking system designed to

highlight universities making a real impact on society through their educational programs and engagement with the broader community. The rankings aim to promote innovation and encourage universities to think creatively about preparing the next generation to meet industry and societal demands. WURI is organized by the Institute for Policy and Strategy on National Competitiveness (IPSNC) and is supported by four other organizations, including the United Nations Institute for Training and Research (UNITAR).

About Minerva University:

Minerva University offers a reinvented university experience for the brightest, most motivated students from around the world. Minerva's undergraduate offering combines a pathbreaking cross-contextual interdisciplinary curriculum, the highest academic standards, an accomplished faculty versed in the science of learning, a global, immersive residential experience that traverses seven countries, and a cutting-edge digital learning environment that produces deep and long-lasting learning. Minerva University is accredited by the Western Association of Schools and Colleges/Senior College and University Commission (WSCUC).

2) ミネルバ大学 AI 研究所がコンセプトをスタートアップに変える

マサソン財団（日本名：孫正義育英財団）との提携で設立されたミネルバ大学 AI 研究ラボは、倫理的・技術的な懸念に対処しながら AI 技術を開発する学生の育成に重点を置いています。ラボは、学生、指導者、教授陣の遠隔コラボレーションによって運営され、学生が AI ベースの製品を作り、投資家に売り込むこともできます。ラボでの議論の中心は、AI の信頼性、解釈可能性、安全性、データの偏り、アルゴリズムの偏りなどです。教育者たちは AI がさまざまな産業でますます重要な役割を果たすと期待しています。同大学は、ラボの成功したアプローチを他の機関にも広め、さまざまな分野で同様のモデルを立ち上げることを目指しています。

<https://www.govtech.com/education/higher-ed/minerva-university-ai-research-lab-turns-concepts-into-startups>

・記事 2) deepL 日本語翻訳

タイトル：ミネルバ大学 AI 研究所がコンセプトをスタートアップに変える

Higher Education / 2022.12.13

ミネルバ大学 AI 研究ラボは、学生グループを集め、この技術に関する倫理的・技術的な懸念に取り組むことに重点を置きながら、独自の AI ツールを作成し、売り込んでいます。

機械学習が進歩する中、人工知能技術や「AI アーティスト」アプリケーションの技術的・倫理的問題についての議論がインターネット上で盛り上がっている現在、ミネルバ大学の教育者たちは、AI 技術がどのように機能するのか、また倫理的かつ効果的に開発する方法を他の人々が理解できるよう取り組んでいます。このような取り組みの中心となっているのが、マサソン財団／ミネルバ大学 AI リサーチ・ラボであり、選ばれた同士たちが AI 技術について学び開発する、AI 研究とスタートアップの共同プログラムです。

ミネルバ大学のマイク・マギー学長によると、同大学は 2019 年、文明の未来に関わるプロジ

ェクトに奨学金などを提供する日本の団体であるマサソン財団と提携し、投資家にアイデアを売り込む前に、学生に AI ベースの新製品を開発する機会を与えることを目的に、このラボを初めて立ち上げました。マギー氏によると、このプログラムには 1 年間の自主研究と、マサソン財団の AI に特化したベンチャー・キャピタルのパートナーである株式会社ディープコア（東京）での夏季インターンシップが含まれており、学生はそこで新しい AI ツールの開発と立ち上げを直接体験することができます。そして、すでにいくつかの AI ベースの技術製品を生み出しています。

マギー氏は、このプログラムは、学生、指導者、教授陣が遠隔で協力できるという点で、他の高等教育機関のスタートアップ団体と比べてユニークだと付け加えました。

「このプログラムを通じて、学生たちは AI が世界で最も困難な課題の解決にどのように役立つかを考えるよう奨励されています。」と、彼はガバメント・テクノロジーへの E メールに書

いています。「発足以来、研究室から生まれたプロジェクトやスタートアップのコンセプトには、気候や栄養、女性の生殖に関する課題に取り組むアイデアが含まれています」。

大学からのEメールによると、プログラムの活動には、設計やブレインストーミングのセッション、学生が他の学生のアドバイザーや指導者となる練習をするメンター／メンティーのセッション、学生がベンチャー・キャピタリストのパネルに自分のアイデアをプレゼンテーションし、市場計画を作成するファンディング・ピッチ・セッションなどが含まれます。このメールには、ある学生グループが最近、生徒の知識のギャップを特定しSATのスコアを向上させるAIベースのSAT対策ツール「MathApp」を開発したと書かれています。

ミネルバ・ラボで行われるディスカッションの種類に関しては、計算科学教授でラボの共同ディレクターであるパトリック・ワトソン氏は、教育者と指導者は、機械学習ツールがより偏在するにつれて、AIの倫理的な発展を促すために、AI技術とその応用に関する今日の懸念と、誰がその懸念に興味があるのか、なぜ興味があるのかを強調すると述べました。

「AIの信頼性と解釈可能性、AIの安全性、データの偏り、アルゴリズムの偏りなどが最も話題に上る懸念事項であり、その理由のひとつは、これらの問題を解決すること、あるいは少なくとも懸念しているように見せることが、テクノロジー企業の経済的利益につながるからです。倫理学者が新しいテクノロジーについて考えるのは、むしろそのような場合が多いのですがAIや機械学習が、私たちの既存の価値観にどのような代替的なレンズを当てるかについては、あまり耳にしません。」とワトソン氏は言いました。

AI・システムは通常、過去のデータ・パターン

とアルゴリズムに依存しているため、「言語で説明するのが難しい難解な判断」を下すことが多く、それがしばしば技術の仕組みを説明することを難しくし、AIに対する人々の不安に焦点を当てたセンセーショナルな報道につながっていると彼は考えていると説明しました。

「(神秘的で恐ろしいロボット)について、心配そうな面持ちの解説記事を書くのは簡単です。しかし、数学的、統計的な観点からシステムを解釈するのは、特に難しいことではないと思います。システムを構築したエンジニアは、通常、そのシステムが何をしているのかを正確に伝えることができます」と彼は言いました。「AIの安全性とは、大まかな考え方ですがSF映画に出てくるようなロボットが人類を殺さないようにしようというのと似たようなところにあります。怖いアイデアは、大衆メディアを通じて容易に広まるため、多くの注目を集め、資金を得ます」。

アルゴリズムによる偏見について言えば、多くの人はAIやAIが収集するデータが、顔認識技術や一部の学力検査プログラムに見られるものと同様で、肌の色が濃い人の顔を認識できないことが報告されているように、「多様な視点や集団を広く代表する」ものではないことを心配する傾向があるとワトソンは指摘します。

「私たちが生きているダイナミックで変化し、不安定な世界を表現するために、(十分な)データを収集することはできません。しかし、テック企業のような確立された主体は、それ自体が物事をより公正または公平にするためではなく、多くの異なる背景や視点を持つ人々に製品を販売することが市場シェアに役立つため、データの偏りと戦うために働いています」と彼は言いました。「AIが面白いと思うことのひとつは、このような倫理的な問題を表面化させることです」。

AI 分野の進歩が今後数年間で機械学習技術はどこに導くかを予測するのは難しいですが、AI 技術の開発者と消費者は予期せぬことを予期する必要があるかもしれないと彼は指摘しました。同時に、この技術が進歩するにつれて、また社会が AI を使った教育プログラムや製品をより一般的なものにしようと後押しするにつれて、今後数年のうちに、業界を超えた日常業務やさまざまな用途で、この技術がますます重要な役割を果たすようになるだろうと述べました。

未知の領域であるにもかかわらず、ワトソン氏は AI 技術の将来とその社会的利益の可能性について楽観的であると語りました。

「今後 10 年で、より多くの人々が AI 技術を直接扱うようになると思います。とはいえ、それらのテクノロジーはあまり派手なものにはならないでしょう。あらゆることを行うために必要とされますが、一般的には（知的行動）の通常概念には含まれない多数の機能に焦点を当ててでしょう」と彼は述べ、より多くの仕事は何らかの AI 技術を伴うようになることを期待していると付け加えました。

ワトソン氏は、AI の便利な点のひとつは、社会的非難に比較的反応しないことだと述べました。

「ロボットは一般的に、データのパターンをかなり明確に見ています。もしロボットが非道な振る

舞いをするなら、それはロボットが作られた環境を反映したものです。というのも、このような新しい AI 技術から派生する技術的パワーと、富や社会的つながりといった従来のネットワークから派生するパワーを同時に持つことが難しくなるからです。」と彼は言いました。「私は、技術的なスキルが、従来の社会的ネットワークに組み込まれていたものをを超える影響力の源となる世界を期待しています。もちろん、大きな課題はアクセスと教育です」。

マギー氏は、このような議論やラボと同様の活動を、独自の AI 開発中心のプログラム設立に関心を持つ他の機関にも広めていきたいと語りました。ミネルバ大学は、持続可能性や地政学など、他の産業分野でも同様のラボ・モデルを立ち上げたいと考え、世界中のパートナーと協力していると言いました。

「ミネルバ大学は、この成功したプロジェクト・ベースの学習アプローチを拡大し、学生が世界で最も差し迫った問題や革新に対する倫理的、実践的かつ現実的な解決策を開発し、生み出すことができるようにしたいと考えています。」と彼は書きました。

www.DeepL.com/Translator（無料版）で翻訳しました。

・記事 2）オリジナル本文（英語）

TITLE: Minerva University AI Research Lab Turns Concepts into Startups
Higher Education / December 13, 2022

The Minerva University AI Research Lab has brought together groups of students to create and pitch their

own AI tools, with an emphasis on addressing the ethical and technical concerns about the technology.

With the Internet currently abuzz with debate about

the technical and ethical problems with artificial intelligence technology and “AI artist” applications amid advances in machine learning, educators at Minerva University have been working to help others understand how AI technology works, as well as how to develop it ethically and effectively. Central to these efforts is the Masason Foundation/Minerva University AI Research Lab, a collaborative AI research and startup program where a select group of fellows learn about and create AI technologies.

According to Minerva President Mike Magee, the university first launched the lab in 2019 in partnership with the Masason Foundation, a Japanese organization that offers scholarships and other resources for projects concerned with the future of civilization, with the goal of giving students a chance to develop new AI-based products before pitching their ideas to investors. Magee said the program includes an academic year of independent research and a summer internship at Masason’s AI-focused venture capital partner DEEPCORE Inc. in Tokyo, where students can get firsthand experience developing and launching new AI tools, and it has already yielded several AI-based tech products.

Magee added that the program is unique compared to other higher-ed startup incubators in that students, mentors and faculty can collaborate remotely.

“Through the program, students are encouraged to consider how AI might be brought to bear on solving the world’s most intractable challenges,” he wrote in an email to Government Technology. “Since its launch, projects and startup concepts emerging from the lab have included ideas to address challenges around climate, nutrition, and women’s reproductive health.”

According to an email from the university, program activities include designing and brainstorming

sessions, mentor/mentee sessions for students to practice being advisers and mentors for other students, and funding-pitch sessions where students present their ideas to panels of venture capitalists and create market plans. The email noted that one group of students recently developed an AI-based SAT prep tool called MathApp, which identifies gaps in a student’s knowledge so they can improve their SAT scores.

As far as the types of discussions that take place at the Minerva lab, computational sciences professor and lab co-director Patrick Watson said educators and mentors emphasize today’s concerns about AI technology and its applications, as well as who is interested in those concerns and why, in order to encourage the ethical development of AI as machine learning tools become more ubiquitous.

“AI trust and interpretability, AI safety, data bias and algorithmic bias are the concerns most talked about, and part of that is because solving these problems — or at least appearing concerned about them — is in the financial interest of technology companies. We hear a lot less about how AI and machine learning put alternative lenses on our existing values, even though that’s more often how ethicists think about new technologies,” Watson said.

He explained that because AI systems usually rely on historical data patterns and algorithms, they often make “arcane decisions that are difficult to explain in language,” which he believes often makes it difficult to explain how the technology works and leads to sensationalized media coverage focusing on people’s anxieties about AI.

“That makes it easy to write a hand-wringing think piece about the ‘mysterious, scary robots.’ But I don’t think the systems are particularly hard to interpret from a mathematical or statistical standpoint. The

engineer who built the system can usually tell you exactly what it's doing," he said. "AI safety, which is the broad idea that we should try to prevent robots from killing all humans like they do in sci-fi movies, is in a similar place. Scary ideas get a lot of attention and funding because they spread more readily through popular media."

When it comes to algorithmic biases, Watson said, many people tend to worry that AIs and the data they collect are not "broadly representative of diverse perspectives or populations," noting the problems with facial recognition technology similar to what's found in some academic proctoring programs, which have been reported to not recognize faces with darker skin tones.

"We can never collect 'enough' data to represent the dynamic, changing and unstable world we live in. But established actors like tech companies work to combat data bias, not to make things more just or fair per se, but because it helps their market share to sell their products to people from lots of different backgrounds and perspectives," he said. "One of the things that I think is interesting about AI is that it surfaces these ethical issues."

While it's difficult to predict where advancements in the field of AI will take machine learning technology in the coming years, he noted that AI tech developers and consumers may need to expect the unexpected. At the same time, he said he expects the technology to play an increasingly important role in daily operations across industries and for a variety of uses in the years to come as it advances, and as society pushes to make AI-based educational programs and products more commonplace.

Despite the uncharted territory, Watson said he's optimistic about the future of AI technology and its potential for social good.

"I think more and more people will work directly with AI technologies in the next decade. That said, those technologies will not look very spectacular. This push will focus on the large number of functions that are required for doing all kinds of things but are generally not part of our usual conception of 'intelligent behavior,'" he said, adding that he expects more jobs to involve some sort of AI technology.

Watson said one of the useful things about AI is that it's relatively unresponsive to social opprobrium.

"The bots generally see patterns in data pretty clearly. If they're behaving outrageously, that's a reflection of the environment they're created in. This is often a positive thing, because it makes it hard for someone to simultaneously have the technical power that derives from these new AI technologies, and power derived from traditional networks of wealth and social connections," he said. "I'm looking forward to a world where technical skills are a source of influence beyond those traditionally embedded in social networks. The big issue, of course, is access and education."

Magee said the university hopes to spread discussions such as these, and activities similar to the lab's, to other institutions interested in establishing their own AI development-centered programs. He said Minerva is working with partners across the world in the hopes of launching similar lab models in other industry sectors, such as sustainability and geopolitics, moving forward.

"Minerva would like to expand this successful approach to project-based learning to enable students to develop and incubate ethical, practical and real solutions to the world's most pressing issues and innovations," he wrote.

3) ネットフリックス共同 CEO ヘイスティングス氏、ミネルバ大学に 2000 万ドルを寄付

ネットフリックスのリード・ヘイスティングス共同最高経営責任者（CEO）は、サンフランシスコを拠点とする非営利の高等教育機関、ミネルバ大学に 2000 万ドルを寄付しました。現在 600 人以上の学生と卒業生を擁する同大学は、この寄付金を奨学金を通じて経済的に困窮している学生を支援し、認知度を高めて入学者を増やし、学術プログラム、研究施設、研究イニシアティブを拡大するために使用する予定です。ヘイスティングス氏は、歴史的に黒人の多い大学に寄付をしたり、KIPP 財団を支援したりと、教育分野での慈善活動の歴史を持っています。ミネルバ大学は、7 カ国にまたがるユニークな学際的学士課程プログラムを提供し、WSCUC（Western Association of Schools and Colleges/Senior College and University Commission）の認定を受けています。ヘイスティングス氏は、教育への革新的なアプローチを通じて世界にポジティブな影響を与える同大学の可能性を信じています。

<https://variety.com/2023/digital/news/netflix-reed-hastings-grant-minerva-university-1235487161/>

・記事 3) deepL 日本語翻訳

タイトル：ネットフリックス共同 CEO ヘイスティングス氏、ミネルバ大学に 2000 万ドルを寄付

Variety / January 12, 2023

ネットフリックス創業者で共同最高経営責任者（CEO）のリード・ヘイスティングス氏は、次世代の高等教育機関として注目されているミネルバ大学に 2000 万ドルを寄付しています。

2012 年にベンチマーク社から 2500 万ドルのベンチャー・キャピタルを得て設立されたサンフランシスコを拠点とするミネルバ大学は、600 人以上の学生と 600 人近い卒業生を擁する米国公認の非営利大学です。ヘイスティングス氏からの 2,000 万ドルの助成金により、同校は「経済的困窮度の高い学生を奨学金で支援」し、認知度と入学者数を向上させ、学生に提供する既存のサービスを拡大し、アカデミック・プログラムから研究室や研究イニシアティブに至るまで、新たなサービスを創設する予定です、とミネルバ大学は述べています。ヘイスティングス氏によるミネルバ大学への過去の寄付は、

100 人近い学生の 4 年間の奨学金を支援しました。

ヘイスティングス氏は声明の中で、「ミネルバ大学の世界的な成長の次の段階を支援できることをうれしく思います。」と述べました。「この寄付は、ミネルバ大学が世界中からさらに何千人もの学生を教育し、そのポジティブな影響を劇的に増大させる軌道に乗せることを意図しています」。

ヘイスティングス氏は教育慈善家として長い実績があります。2020 年、ヘイスティングス氏と妻のパティ・クイリン夫人は、スペルマン・カレッジ、モアハウス・カレッジ、そして歴史的に黒人の多い大学への奨学金としてユナイテッド・ニグロ・カレッジ・ファンドに 1 億 2000 万ドルを寄付しました。昨年、夫妻はミシシッピ州の歴史的に黒人の多い大学であるトゥガルー・カレッジに 1000 万ドルを寄付しました。ヘイスティングス氏とクイリン夫人は、有色人種の低所得者層を対象とした授業料無料のチャーター・スクールの全国ネットワークを運営

する KIPP 財団を支援しています。

ミネルバ大学は、「画期的なクロス・コンテキストの学際的カリキュラム」と、7 カ国にまたがる没入型の滞在体験、そして「最先端のデジタル学習環境」を組み合わせた学部課程を売り物にしています。同大学の大学院学位プログラムにも、同様の学習アプローチが取り入れられています。ミネルバ大学は、WSCUC (Western Association of Schools and Colleges/Senior College and University Commission) の認可を受けています。

ヘイスティングス氏は、「ミネルバ大学の卒業生は、グローバルな文化理解の深さ、分野を超えた知的スキル、高等教育ならではの問題解決能力を持っています。私は、ミネルバ大学が世界におけるプラスの影響力を増大させる信じられないほどの可能性を見ています。」と述べました。

ミネルバ大学のマイク・マギー学長は声明の中

・記事 3) オリジナル本文 (英語)

TITLE: Netflix Co-CEO Reed Hastings Donates \$20 Million to San Francisco's Minerva University
Variety / January 12, 2023

Netflix founder and co-CEO Reed Hastings is donating \$20 million to Minerva University, styled as a next-generation institution of higher education.

Founded in 2012 with \$25 million in venture capital from Benchmark, San Francisco-based Minerva University is a U.S. accredited non-profit university with more than 600 students and nearly 600 alumni. With Hastings' \$20 million grant, the school plans to "support students with high financial need with scholarships," boost awareness and enrollment, and expand existing offerings to students and create

で、「リード・ヘイスティングス氏が、ミネルバ大学の私たちのアプローチの独自性と、世界に深くポジティブな影響を与える学生を教育する方法を認めてくれたことを光栄に思います。リードは、すべての学生のための質の高い教育へのアクセスを深く支援しており、この信じられないほど寛大な寄付は、より良い世界のためにグローバルな高等教育を提供する私たちの努力を検証するものです。」と述べました。

ヘイスティングス氏は現在、約 34 億ドルの純資産を持ち、ネットフリックス株を保有しています。彼は 1983 年にメイン州のボウディン大学を卒業し、数学の学士号を取得しています。スタンフォード大学で人工知能の修士号を取得しています。

www.DeepL.com/Translator (無料版) で翻訳しました。

new ones ranging from academic programs to lab and research initiatives, Minerva University said. Hastings' prior donations to Minerva supported four-year scholarships for nearly 100 students.

"I am excited to support Minerva into its next phase of global growth," Hastings said in a statement.

"This gift is intended to set Minerva on a trajectory towards educating many more thousands of students from around the world and dramatically increasing its positive impact."

Hastings has a long track record as an educational philanthropist. In 2020, Hastings and his wife, Patty Quillin, gave \$120 million to Spelman College,

Morehouse College and the United Negro College Fund for scholarships to historically Black colleges and universities. Last year, the couple donated \$10 million to Tougaloo College, an HBCU in Mississippi. Hastings and Quillin have supported the KIPP Foundation, which runs a national network of tuition-free charter schools serving low-income communities of color.

Minerva touts its undergraduate program as combining “a pathbreaking cross-contextual interdisciplinary curriculum” with an immersive residential experience that spans seven countries along with a “cutting-edge digital learning environment.” The university’s graduate degree programs incorporate a similar approach to learning. Minerva University is accredited by the Western Association of Schools and Colleges/Senior College and University Commission (WSCUC).

Hastings commented, “Minerva graduates have a

depth of global cultural understanding, intellectual skills that cross disciplines, and problem-solving abilities unique to higher education. I see incredible potential for Minerva University to increase its positive impact in the world.”

Minerva president Mike Magee said in a statement, “I am honored that Reed Hastings recognizes the uniqueness of our approach at Minerva University and how we educate students to have a profoundly positive impact on the world. Reed deeply supports access to quality education for all students, and this incredibly generous gift validates our efforts to provide global higher education for a better world.”

Hastings currently has a net worth of about \$3.4 billion tied to his holdings in Netflix stock. He graduated from Maine’s Bowdoin College with a bachelor’s degree in mathematics in 1983. He holds master’s degree in artificial intelligence from Stanford University.

◆もっと知りたい場合◆

Minerva University